WAB失語症検査 日本語版
実施確認・得点整理・経過記録

医学書院1986年版に対応する編集資料 ／ 2026年11月15日作成

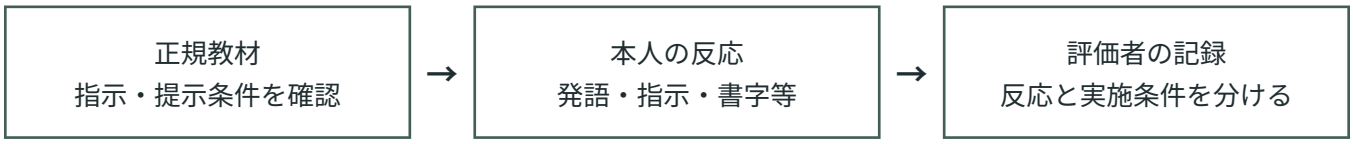
> **正規の検査手引・記録用紙・検査カードと併用してください。**
> 本資料は公式用紙ではありません。全設問、逐語指示、項目別の部分点・中止基準、標準刺激は未収録です。本資料だけでは正式なWABの実施・採点は完結しません。

01　実施条件をそろえる

対象者・検査	記入欄
対象者ID／評価日	／　　年　　月　　日
評価者／職種	
使用版／手引の版・刷	WAB失語症検査 日本語版（1986年）／
開始・終了／分割日	：　　～　　：　　／
疾患・発症日／主な使用言語	
利き手／書字に使用した手	
眼鏡・補聴器／視野・聴力	
姿勢・麻痺・疼痛／疲労・覚醒	
情報提供者／本人との関係	／

課題に反応するのは本人です。家族は背景情報の提供者であり、本人に代わって解答する役割ではありません。訓練を受けた評価者が正規手順で提示・観察・採点します。

実施方法の説明図（独自作成・標準刺激ではありません）



図は役割を整理するためのものです。物品の種類・配置、反復提示、時間制限、ヒント、試行回数は各課題の手引に従い、この図から追加しません。

02　AQの得点整理

各設問の得点は正規記録用紙で決定し、下表へ転記します。粗点と換算後の得点を混在させないでください。AQは0〜100で、高いほど口頭言語課題の成績が良好です。

領域	粗点・評価点	換算／AQに用いる値
自発話：情報の内容	／10	
自発話：流暢性	／10	2項目合計 S＝　　／20
話し言葉の理解	／200	÷20 → C＝　　／10
復唱	／100	÷10 → R＝　　／10
呼称	／100	÷10 → N＝　　／10

> **AQ ＝（S ＋ C ＋ R ＋ N）× 2**
> （　　＋　　＋　　＋　　）×2 ＝　　／100
> 算出日：　　照合者：　　算出保留の理由：

確認する順序

1. 正規手引の規則に従って全ての必要な得点が確定しているか。
2. 理解・復唱・呼称が粗点か換算後か。換算済みの値を再度割らない。
3. 自発話は内容と流暢性の合計。流暢性のみで代用しない。
4. 読み・書字・行為・構成等の点数をAQに足していないか。

計算例（架空の得点・採点練習ではありません）

S＝12、理解粗点＝160、復唱粗点＝60、呼称粗点＝50なら、
AQ＝（12＋160÷20＋60÷10＋50÷10）×2＝62.0。

> **未実施・反応なし・規定の中止を区別**
> 未実施を独自に0点へ置換したり、実施分だけを100点換算したりしません。規定の中止に伴う処理は手引に従います。必要得点が確定しない場合、この資料ではAQを算出せず、理由を残します。これは編集上の記録方針であり、新しい欠損規則ではありません。

未実施・中断・追加提示の記録（課題／理由／対応／手引の参照箇所）

03　領域別プロフィール

点数は正規用紙から転記し、尺度・満点を併記します。観察欄は独自の記録欄です。内容の正確さ、反応時間、誤り方、補助条件を記録してください。

領域	得点／満点	実際の反応・条件
自発話（内容／流暢性）	/10・　/10	
話し言葉の理解	／10	
復唱	／10	
呼称	／10	
読み	／	
書字	／	
行為	／	
構成行為・視空間行為・計算	／	

後半4領域は使用した正規用紙の得点・満点をそのまま記入します。粗点／換算値の別を明記してください。

正式に算出した指数	転記欄／手引・用紙の参照箇所
AQ（失語指数）	／100　参照：
PQ（動作性指数）	／100　参照：
CQ（大脳皮質指数）	／100　参照：

PQ・CQの計算は正規用紙で行います。CQをAQとPQの単純な足し算で代用しません。AQは知能指数、意思決定能力、生活自立度を直接表す値ではありません。

分類・臨床判断（参照した版／分類根拠／一致しない所見）

日本語版開発者論文の分類基準は全失語・ブローカ失語・ウェルニッケ失語・健忘失語の4型について提示されています。英語版の分類表をそのまま日本語版の標準表として扱いません。

重点所見（発語の誤り／理解／構音・発語失行／視聴覚・運動面）

04　経過・申し送り・生活の確認

比較する点	前回	今回
評価日／発症からの期間		
版／実施範囲		
AQ／算出できない理由		
眼鏡・補聴器／疲労・休憩		
追加提示など条件差		

申し送り：残っている力／難しい場面／有効だった伝え方

本人の希望と生活場面（検査とは別の観察・支援計画）

生活では、短い声かけ・文字・実物・身ぶりなどを試し、本人の選択が相手に伝わるかを確かめます。その支援下の反応を、標準検査の得点に混ぜません。再評価では得点差だけでなく条件差を確認します。

正規資料・出典と掲載範囲

1. WAB失語症検査（日本語版）作製委員会編（代表：杉下守弘）．**WAB失語症検査 日本語版**．医学書院，1986．原著：Andrew Kertesz。手引・検査カード103枚。
   https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/1390
2. 医学書院．**WAB失語症検査 日本語版［記録用紙］**．
   https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/2047
3. 杉下守弘，亀和田文子．WAB失語症検査．失語症研究．1987;7:222–226．doi:10.2496/apr.7.222
4. Determining levels of linguistic deficit by applying cluster analysis to the aphasia quotient of Western Aphasia Battery in post-stroke aphasia. Scientific Reports. 2022. doi:10.1038/s41598-022-17997-0

位置づけ・権利
STROKE LABによる独自の解説・記録欄です。検査本文・カード・標準刺激・分類表の転載や、公式日本語版の再発行ではありません。図は1ページ目の独自説明図のみ。正規教材の再配布許諾は未取得です。出版社の利用許諾窓口：
https://www.igaku-shoin.co.jp/inquiry/publication